

飯山市教育懇談会（飯山小学校区）発言要旨

平成28年11月21日（月）飯山小会議室

参加者40名

1. 開 会

2. あいさつ

自己紹介

3. 説 明

- (1) 『飯山市教育大綱』について
- (2) 『家庭学習のすすめ』について
- (3) 飯山市児童・生徒の現状と課題について
- (4) 飯山小・城南中学校の現状と課題について
- (5) 学校別児童生徒数推移
- (6) 中学生の進路先について

4. 懇 談

○コミュニティスクールについて、放課後の学習の様子が説明されたが、参加する子は決まっているのか。放課後、学習しようとする子が自由に参加できるのか。

（学校）

日常的な学習支援ということで、自由参加をとっています。家庭学習が必要な1年から4年までを対象に募集をかけ、なおかつ児童館、児童クラブの利用もありますので3時半から4時半ということで、自主的に活用してくれています。

○新聞を読んでいる子が少ないと感じる。大人が新聞をとっていない、あるいはテレビ欄しか見ていないこともあるのではないかな。しかし大学入試も時事問題等、そういったところから出題されており、世の中でどのようなことが起こっているかを知ることが大事。わからない言葉や漢字を調べるということも大事ではないかな。それには、いきなり大人の新聞を読むのはハードルが高い。小学生新聞を飯山小でも取り入れてもらった。新聞に慣れ親しんでもらうことも大事だと思っている。投書欄ではいろんな人の意見を知ることができる。

外国語教育は、話せるだけでなく、その国のことを知ることが必要ではないかな。テレビ

でアメリカが多く取り上げられているが、それ以外の国にも目を向けられるようになってほしい。海外へ出た時には自国や地域を聞かれる。ふるさと学習でふるさとを語れるようになってほしい。

中学になり勉強が難しくなっている。授業でわからなかったことは宿題で持ち帰ってきててもわからない。放課後、先生に聞いたらどうかと子どもに話すと、部活動の時間もあり聞くことができないと話す。まず勉強を理解したうえで部活動を行うよう、放課後に先生に質問できるような時間が取れたらいいと思う。

経済力や塾ありきで勉強を理解しているのではなく、スタートラインは同じとなるよう、学校での勉強時間をしっかりとってほしい。

なちゅらについて、演奏会があると演奏中でも会場への出入りがある。

社会的、一般的マナーとしてなっていない市民が多いのではないかと感じる。子どもの頃から、演奏中は出入りを控える等、一般的なマナーを教える必要もあるのではないかと感じる。

(学校)

新聞を読む習慣について、全国より数値的には上回っているが、具体的に新聞の良さを理解できるよう進めていきたいと思います。

授業のわからないことを聞けない、部活優先・塾ありきは、校長という立場ではありませんが、そのとおりだと感じています。

保護者アンケートでも、授業でわからないことを聞ける機会を作ってほしいという指摘を受けています。3年生は、朝・放課後学習しています。1・2年生についても学習の定着を図るための機会をもち、教職員も頑張っていますが、今のご意見を聞いて、ある程度の形を作る必要性を感じました。経済格差や塾へ行ける人といけない人の差が出てはいけないと思っています。具体化していきたいと思います。

(学校)

外国を知る活動につきましては、教科化が迫っているなかで授業取組は難しいものがありますが、外国語活動であれば、カリキュラムで取り組めるかなと思っています。

ふるさと学習は、ここで生まれて育つという地域への愛着がもてるような学習を進めていきたいと思います。6年間を通して身に着くようにしたいと思っています。

〇親として、子どもたちには、勉強やスポーツができることよりも、生まれてきてよかったと思えるように育ってほしいと思っている。

学力に重点が置かれているようだが、人間性のなかでは側面でしかないのかと思っている。調査結果で「将来の夢や目標を抱けない」「学校が楽しくない」「自分の良いところが見つけられない」自己肯定感が低いというようなところを、小さい頃から自己肯定で

きるように育つのが大事かと思う。

将来の夢については、大人が子供たちに夢を語れるのが大事ではないか、学校の楽しさについては、まず授業で先生たちが授業を楽しんでいると思えるよう工夫を頂きたい。授業が楽しいと思って学べるようにしてほしい。

子どもたちには、自分はたった一人の存在だということを、存在していることが貴くて奇跡的なことで幸せなことを、小さなころから大人含めてともに考えて教えていかないといけないと思う。競争・学力・スポーツなどで成績を残さないと自信がもてないようでは、いじめや自殺がなくならないと思う。

(教育委員会)

非常に本質的なことをお聞きしました。

私自身は、一人一人の子どもが最期を迎えた時に「自分が生きてきてよかった」と思えるように育てたいと思っています。そのためには自分の居場所があるということ、自分が家族にとって必要な人間であるということ、日常生活の中で実感できるように、周りの大人が一人一人を良く見ていることが大事だと思います。

そのうえで、勉強というのは本来楽しいものだというのが、子どもたちに伝われば、子どもたちは黙っていても勉強するようになると思います。そういったところまで、特に小学生には学校や保護者や地域で導いていくことが大事だと考えます。

繰り返しになりますが、基本は、最低限自分が生きていていいということを、小さいころから周りの大人が示すことや教えることが大事だと思います。

そのことがピンチの時や厳しい時、苦しい時に乗り越えられる人になると思っています。教育の本筋というものを大人がしっかりと示すことが大事だと考えます。

○飯山市ということではなく全国の流れの中で、学習指導要綱が厳しくなり、中学で教わっていたことが小学で、高校で教わっていたことを中学で習う流れになってきている。私が小学校を卒業した頃は、土曜日も半日授業であった。その後ゆとり教育の週休二日になってきたが、先生方の課題や教えなければいけないことが増え、時間的にタイトになってきている。1年間の学校行事もたくさんある。飯山市とか長野県とかの話ではなく、教育現場全体の流れとして、そういったところを見直す予定や変更点など予定されていることがあれば情報として教えていただきたい。

(教育委員会)

日本の教育現場は非常にめいっぱい、そこに英語教科が入ってくるという現場の先生にとっては大変厳しい状況になっております。

しかし社会が週休二日体制ですので、土曜日授業の復活は現実的に厳しいと思います。

今回、英語授業も小学校3～6年生に取り入れることになりますが、授業時間が全く空いていなくても、教科として組まなくてはならない状況です。

そこで飯山市では平成20年度からの英語教科化に向けて、小学校の英語をどのような方向へ持っていくのがよいかということを取り先取りし検討しております。

授業時間をどのように組むか、対応は難しいのですが、それでも対応しなければ子どもたちが遅れをとることになりますので、学校行事の選択等も含めて子どもたちの負担にならないよう検討中です。

小学校の先生の中には、教員になる時に英語が教科化するとは考えてもみなかった先生もおりますので、国の政策自体が現実を見ないで進めている感じもいたしますが、そればかりも言っていられませんので、飯山市としてしっかり検討してきたいと思っています。大きな問題ですので、飯山市としては、このような回答しかできませんが、よろしくお願いします。

○城南中学移転により、夏場は自転車通学の生徒たちについて、冬はどうなるのか。

(教育委員会)

城南中移転により2学期から新たな交通体系にて通っていただいておりますが、3キロ以上の子どもさんは申請により自転車通学を許可している状況です。ただし冬期間は、概ね5キロの子どもさんは公共交通機関を利用し、その交通費に対し負担をしています。基準以下の生徒さんは徒歩となっています。

(学校)

お願いとお詫びになりますが、城南中生徒の自転車の乗り方が良くないということで、地域の方々から非常に厳しいご指摘を頂いております。

たとえば城南中近くにセブンイレブンがありますが、そこから増尾接骨院さん辺りまでの歩道は自転車もよいことになっておりますが、生徒が道いっぱいに広がって歩いているために、歩道を走る自転車の生徒が周囲の確認をせずに突然車道に飛び出してしまうこと、上倉のローソンからなちゅらへ向かう坂道を、薄暗い中を猛スピードで無灯火のまま下ってくるという意見も頂いております。

コミュニティスクール立ち上げの中で、真っ先に取り組みたいのが子どもたちの安全見守り隊です。厳しいご指摘もありがたいのですが、これから募集をかける中で、地域の方々に朝・夕の時間のあるところで、お立ちいただいて、あいさつや無事故のための声掛けをお願いしたいと思っています。

○自転車の運転について話があったが、本町アーケードで中学生、高校生がスピードをだして走っている。お店から出たお客さんと衝突したことがあった。小さい子どもであれば賠償問題等、大けがになってしまうところだった。

走るなどと言わないが、安全に止まれるようなスピードとなるよう自転車運転の安全指導をお願いしたい。

(学校)

地域も学校も双方ともに安全運転にむかっていけたらと思います。